



秋まつりを開催しました!



今年は暑さの影響から夏まつりを秋に移し、爽やかな気候の中での開催となりました。当日は「雨が心配…」という声もありましたが、見事に晴れ間がのぞき、皆さんの笑顔が広がる一日となりました。

オープニングは、成良中学校吹奏楽部の皆さんによる楽しい演奏が響き渡り、会場は一気に華やかな雰囲気に！屋台ではたこ焼き・綿菓子・フランクフルトなどの香ばしい香りが漂い、販売コーナーでは新鮮野菜やヤクルト、手作り雑貨、家族会のバザーなどが並びました。押し花アートや福祉ネイル体験などの体験ブースも大人気で、地域の子どもたちと一緒に、入居者の皆さんも思い思いに楽しむ姿が見られました。

また、「災害時に役立つ生活環境づくり」をテーマにした尼崎市重層的支援推進担当課のブースでは、防災について学ぶ貴重な機会にもなりました。

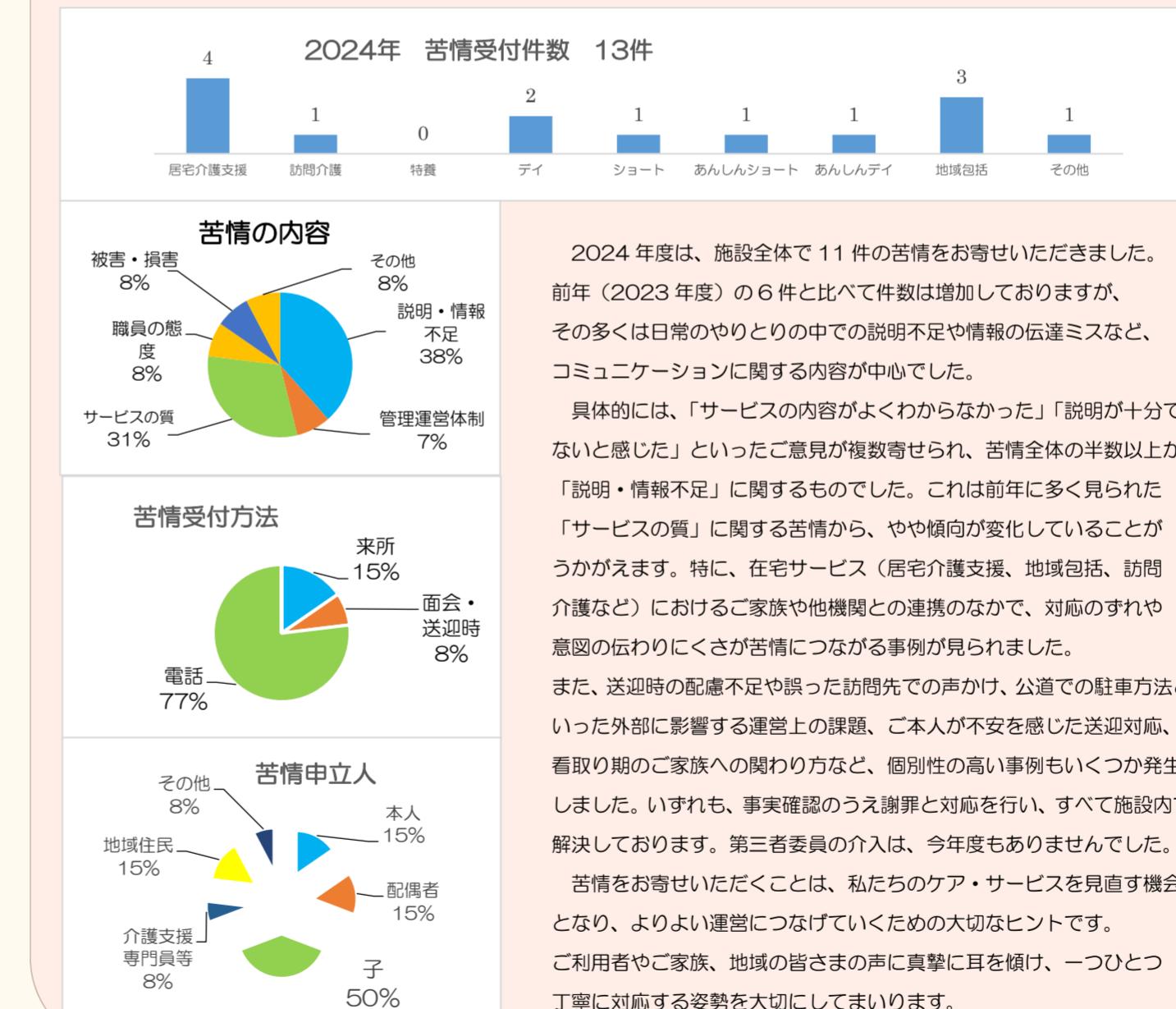
「人がいっぱいでお祭りみたい！」「楽しかったね！」といった声があちこちから聞かれ、地域・家族・ボランティアの皆さん一起となって盛り上がった秋まつり。高校生ボランティアや地域の方々のご協力に支えられ、入居者の皆さんのがいきいきとした表情が輝いた、心温まる一日となりました。



新しい仲間をご紹介します！

名前	年齢	部署	趣味
CARINO STEPHANIE PACIOS	24	特養 2階	映画「プライベートライアン」
RAVIKA	24	ショートステイ	料理
DITA HERAWATI	24	ショートステイ	旅行 サウジアラビアのメッカを訪れ、とても感動しました。

2024年度 喜楽苑 苦情対応に関する報告書



2024年度は、施設全体で11件の苦情をお寄せいただきました。前年（2023年度）の6件と比べて件数は増加しておりますが、その多くは日常のやりとりの中での説明不足や情報の伝達ミスなど、コミュニケーションに関する内容が中心でした。

具体的には、「サービスの内容がよくわからなかった」「説明が十分でないと感じた」といったご意見が複数寄せられ、苦情全体の半数以上が「説明・情報不足」に関するものでした。これは前年に多く見られた「サービスの質」に関する苦情から、やや傾向が変化していることがうかがえます。特に、在宅サービス（居宅介護支援、地域包括、訪問介護など）におけるご家族や他機関との連携のなかで、対応のずれや意図の伝わりにくさが苦情につながる事例が見られました。

また、送迎時の配慮不足や誤った訪問先での声かけ、公道での駐車方法といった外部に影響する運営上の課題、ご本人が不安を感じた送迎対応、看取り期のご家族への関わり方など、個別性の高い事例もいくつか発生しました。いずれも、事実確認のうえ謝罪と対応を行い、すべて施設内で解決しております。第三者委員の介入は、今年度もありませんでした。

苦情をお寄せいただくことは、私たちのケア・サービスを見直す機会となり、よりよい運営につなげていくための大切なヒントです。

ご利用者やご家族、地域の皆さまの声に真摯に耳を傾け、一つひとつ丁寧に対応する姿勢を大切にしてまいります。

イザ! カエルキャラバン!

// 7月27日に開催しました //



「イザ! カエルキャラバン!」は、家族や友達と遊びながら防災について学べるイベントです。喜楽苑では初めての開催となり、防災カードゲーム、水害紙芝居、非常食の試食会など、さまざまなブースを用意しました。当日は小さなお子さんからご高齢の方までたくさんの方にお越しいただき、会場はにぎやかで笑顔にあふれています。

子どもたちが一生懸命考える姿や、答えがわかった瞬間のキラキラした笑顔、大人がそっと寄り添いながら一緒に学ぶ姿があちこちで見られ、「みんなで楽しみながら学ぶ防災訓練」となりました。遊びを通して「知らなかったこと」や「なんとなく知っていたこと」を確かめ合い、防災をぐっと身近に感じてもらえたのではないかと思います。

今回のイベントは、小田高等学校の先生・生徒のみなさん、そして地域の方々のあたたかいご協力があってこそ実現できました。初めての取り組みでしたが、みなさんと一緒に準備を進められたことで、とても心強く、楽しく取り組むことができました。本当にありがとうございました。

「いざ」という時に、今日学んだことがきっと役立つように、これからも地域のみなさんと一緒に取り組んでいきたいと思います。

地域交流委員会



令和7年 特養 敬老祝賀会

今年は7名の方が節目の年を迎えられました。

卒寿 (90歳) : 田中 恵美子さん

米寿 (88歳) : 石飛 マツ子さん、平田 ミチ子さん、畠山 健次郎さん

傘寿 (80歳) : 中村 静子さん

喜寿 (77歳) : 帰山 とし枝さん、高本 美代子さん



「みんなも腹巻して、
風邪ひかんようにせんと、
ありがと！」

青森出身の畠山さんは長年大工として活躍されてきました。

紹介で「腹巻はいつもしていた」と話すと、笑顔で青森なまりの言葉を会場に届け、その一言に笑いと温かさが広がりました。



乾杯!



喜楽苑で今年も敬老祝賀会を行いました。入居者の皆さん、お祝い膳を囲みながらビールやジュースで乾杯し、和やかで華やかなひとときを過ごされました。会場には藤本離嘉先生の三味線の音色が響き渡り、皆さんは自然と手拍子を打ち、演奏を楽しんでいました。中には三味線を手に取り音色を試される方もおられ、その新鮮な体験に笑顔があふれていきました。節目を迎えた方への紹介文が読まれると、思わず涙ぐまれる方もおられ、その想いに寄り添うように会場全体が温かな空気に包まれました。入居者の皆さんのお笑顔と感動があふれた心に残る一日となりました。

節目を祝う文化は奈良時代に中国から伝わり、やがて「敬老の日」として広まりました。

「人生五十年」から「人生百年」の時代へ。

節目を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。これまでの歩みに敬意を表し、皆さまのこれからの日々が穏やかで実り多いものとなりますようお祈り申し上げます。

伊波君子さんとふるさと沖縄を訪ねて



「お父さんとこんなことがあったのよ…」

神戸空港へ向かうタクシーの中、昔の写真をめくりながら伊波さんはにこにこと話されます。指先で写真をなぞりながら、「あの頃はよく一緒に海へ行ったのよ」と懐かしそうに笑う姿からは、長い年月の思い出がそっとあふれ出しているようでした。飛行機に乗る前は少し緊張されましたが、「少しドキドキするけど楽しみね」と話され、期待と不安が入り混じった表情も見られました。

◆◆ 1日目

沖縄に到着すると、まずは伊波さんのお墓へ。亀甲墓の前に立つと、その大きさと独特な形に圧倒されつつも、深く頭を下げられました。「会いに来たよ、ずっと来られてごめんね」と何度も手を合わせる姿は、静かで厳かな空気の中に、あたたかい思いが満ちていました。微かに漂う線香の香りや、穏やかな海風に包まれながら、手を合わせるその背中からは深い愛情と尊敬が感じられました。

その後はお父様の生まれた地、読谷村を散策。青い海、潮の香りに包まれながら歩き、カフェで一息。「やっぱり海を見ると落ち着くわね」と笑顔を見せてくださいました。夜は居酒屋で沖縄料理を満喫。フーチャンプルーやモズクの天ぷら、ラフテーなど 彩り豊かな料理を前に「どちら食べようかしら」と目を輝かせておられました。

◆◆ 2日目

琉球稻領泡ガラスでお気に入りのプローチを見つけ、ヤチムン里では仏壇に置く陶器の一輪挿しをじっくり吟味。「これがいいかな、あれも素敵ね」と声を弾ませながら選ぶ姿から 旅の喜びが伝わってきました。最後は「座喜味そば」でお腹を満たし、にこにことした笑顔で旅を締めくられました。

◆◆ 旅のあとに

帰宅後も、「よかったわー、また行くわ」とアルバムを見ながら旅を振り返る伊波さん。航空券も仏壇にしまわれ、大切な思い出となりました。ふるさと訪問のひとときは、心の中でいつまでも生き続けています。



龜甲墓とは、龜の甲羅に似た形をした沖縄独特の伝統的なお墓です。

